

施策評価管理シート

施策体系	政 策	1	支え合い健康でいきいきと暮らせるまち	2017(平成29)年6月作成	
	基本施策	3	地域福祉の充実	担当部局名	部局長名
	施 策	1	高齢者福祉	福祉子ども部	森嶋 和宏

1. 施策の基本方針 **P**lan

○ 高齢者が住み慣れた地域で安心した生活が継続できるように介護予防、認知症ケア、医療と介護・福祉との連携、地域での生活支援を柱に施策を進め、地域包括ケアシステムの構築に努めています。今後、「超高齢社会に対応した地域包括ケアシステムの推進」のため、高齢者を取り巻く環境や地域体制等を検証しながら施策展開を図ります。

2. 現状と課題 **P**lan

○ 超高齢社会を迎え、福祉サービスの需要増大、ニーズの多様化に対応できるよう、介護保険サービスの充実とともに、地域をはじめ多様な担い手による支援体制の構築が必要となります。
 ○ 健康づくりをはじめ、要介護状態になることへの予防、要介護状態になってもそれ以上状態が悪化しないような取組、介護予防で得られた活動的な状態をバランスよく維持するための活動や社会参加を促すための取組を進めることが重要です。
 ○ 住み慣れた地域で最期まで安心して暮らしていくため、在宅医療支援体制の整備、充実が求められています。医師会を中心とした在宅医療体制の構築を進め、関係機関等との連携体制や多職種との協体制が図れるよう関係づくりが必要となります。

○ 施策指標（目標）及び達成状況 **P**lan **D**o

施策指標（目標）の内容（単位）		現状値 (H26)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	進捗率
生きがいを感じながら、安心して暮らしている高齢者の割合（％）	目標	-	-	-	80.5	
	成果	76.9	78.5			44.4%
地域づくり組織・区・自治会などの地域づくり活動に参加したことのあつる65歳以上の市民の割合（％）	目標	-	-	-	80.0	
	成果	71.9	72.7			9.9%
認知症サポーター養成数（人【延べ数】）	目標	-	-	-	10,000	
	成果	5,596	7,649			46.6%

3. 課題解決への取組内容（平成28年度） **P**lan **D**o

計 画	実績及び主な成果
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の状況に応じ「まちじゅう元気!!チーム」による課題共有や解決に向けた協議・検討を継続実施し、「まちじゅう元気!!リーダー」の活動を継続的に支援するフォローアップ研修や、活動交流会、実践報告会などを実施し、まちじゅう元気!!プロジェクトを推進します。 ・有償ボランティア事業への補助や災害時要援護者同意者リストの配布等を継続し、安心して地域で生活が続けられる基盤の整備を図ります。 ・複合的な生活課題に対しワンストップ窓口で対応するため、「エリアディレクター（包括的相談員）（仮称）」を配置し、地域包括支援センターの機能強化を図ります。 ・介護保険サービスの提供基盤の整備推進を図るとともに、生活支援コーディネーターの配置等地域と連携し、互助の仕組みづくりに取り組みます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域づくり組織との協働による生涯現役・地域の支え合いの推進に向けた「まちじゅう元気!!プロジェクト～地域の元気づくり・人づくりのプロジェクト～」の取組により養成した、各地域の「まちじゅう元気!!リーダー」約270名に対して、食事や栄養、運動などについてのフォローアップ講座を実施し、スキルアップを図りました。 ・住み慣れた地域で最期まで安心して暮らしていくため、地域の支え合い（7地域の有償ボランティア組織への支援）、地域の見守りネットワークづくり（新規同意者リストの地域への提供）の取組を推進しました。 ・市の窓口である地域包括支援センターにエリアディレクターを配置し、複合的な課題を総合かつ円滑に支援できる体制の整備を図りました。対応したケースは17ケース。エリアディレクターが調査情報収集と支援の見立て、関係機関との連絡調整を行い現場の旗振り役を担う役割を果たしました。平成28年10月エリアネットワーク会議 各機関の取り組みを共有し、また11月には広く全市民に向けて地域共生社会構築の必要性について意識を持っていただくための教福連携名張サミット開催しました。 ・全市的に生活支援・介護予防サービスのコーディネートに等に関する事業を名張市社会福祉協議会へ委託しています。

4. 成果を踏まえた課題や現状 **C**heck

・「まちじゅう元気!!リーダー」が地域での活動の場を増やし、地域の支え合い事業の担い手となれるよう、各地域での協議を重ね、実践につなげることが重要です。
 ・地域での生活支援、見守りの体制づくりにおいて、関係する部署との連携を図り、地域の特性、ニーズ等に応じた支援を行う必要があります。
 ・ニーズの多様化、問題が複合化に対応するため、まちの保健室でワンストップ窓口として対応していますが、ニーズの多様化に対応できる人材育成が課題となります。また、超高齢化に向けて、地域の見守りネットワークの構築や地域をはじめとする多様な担い手の支援体制の構築が引き続き課題となります。

5. 課題解決への取組内容（平成29年度） **A**ction

・地域の状況に応じて「まちじゅう元気!!リーダー」の活動を継続的に支援するとともに、フォローアップ研修や、活動交流会、実践報告会などを実施し、「まちじゅう元気!!プロジェクト」を推進します。
 ・有償ボランティア事業の立上げ支援や災害時要援護者同意者リストの配布等を継続し、安心して地域で生活が続けられる基盤の整備を図ります。
 ・多様化、複合化する課題に包括的な支援を実施するため、関係機関のネットワーク強化等、地域福祉教育総合支援システムを推進します。
 ・圏域の基幹となるまちの保健室の人員体制を強化すると共に、総合相談機能の充実のため研修事業を実施します。

6. 行政評価委員会による総合評価



関係機関との連携強化を図るとともに、地域での支え合いや見守りネットワークづくりの体制整備に引き続き努めること。